

第32回全国ホタル研究大会報告

研究大会の概要

全国ホタル研究会の第32回大会が6月25～27日にかけて、全国ホタル研究会主催、環境庁、群馬県、月夜野町、月夜野町教育委員会の後援により群馬県月夜野町で開催され、会員や地元のメンバーなど約290名が参加しました。

25日は昼から大会会場となる月夜野カルチャーセンターで受付が行われました。カルチャーセンターの通路にはホタルうちわ、ホタル祭俳句・短歌の入選作品や月夜野の自然を紹介した写真が展示されていて、受付を済ませた会員の目を楽しませていました。14時から時折小雨が降るなか見学会が行われました。まず、カルチャーセンターに隣接する月夜野町立北小学校のカワニナ養殖施設を見学しました。月夜野町ではホタルを増やそうとするならば、カワニナはその10倍は必要であるということから、町の施設と町内各小中学校でカワニナの飼育を行っており、北小学校では平成8(1996)年からカワニナの飼育に取り組んでいるとのこと。その後バスに分乗して清水沢の農業用水路、竹戸改のカワニナ養殖地、月夜野のホタルの里を見学しました。ホタルの里は上越新幹線上毛高原駅のすぐ裏手にあり、交通の便の良さから、ホタル祭には東京周辺からも人が訪れるそうです。見学会の後には一旦各自宿泊場所に移って夕食をとり、夕方から再びホタルの里へ移ってゲンジボタルの光を楽しみました。蛇足ですが、当日は陸生ホタル、特にオバボタルの姿が多く見られ、会員の中で見学の合間にこれらを採集する姿も見られました。

26日の開会式はチェコ共和国からの国際交流員として月夜野町役場企画観光課に在職していたルーシー・シュレンジェロヴァさんの司会で行われ、圓谷事務局長の開会のこと



受付風景



見学会（竹戸改カワニナ養殖施設）

ばに続いて、大場会長、小林雅男月夜野町長、林 弘二群馬県環境生活部長(小寺弘之群馬県知事代理)、小野里光敏群馬県議会議員が挨拶されました。

引き続いての研究発表は、午前中に4題、午後から6題が行われました。今年は「文化昆虫ホタルー古典の中からー」「螢狩りの唄の地域多様性とその保存について」というホタルと人間との文化的な関わりについての報告が2つあり、これまでのホタルの保護・保全や飼育方法、生態研究、活動報告等とは違った面からのアプローチがなされました。また、「東南アジアおよびその周辺で発見された水生ホタル」ではゲンジボタル・ヘイケボタルを含めた水生・半水生ホタルが紹介されました。



開会式の司会を務めたシュレンジェロヴァさん



古馬牧小学校の発表

研究発表の終了後、休憩をはさんで丸岡文夫氏を議長に総会が開られました(総会報告参照)。総会后、圓谷事務局長より閉会宣言が行われ、大会が終了しました。夕方からの懇親会は場所を月夜野の地ビールが飲めるビアレストラン「ドブリーデン」に移して行われ、各々親睦を深めました。

27日はあいにくの雨となりましたが、希望者が半日コース(谷川岳ロープウェイ他)と一日コース(尾瀬散策)に分かれて観光を行いました。

会 場：群馬県月夜野町 月夜野カルチャーセンター

大会日程：

6月25日(金)

12:00~14:00 受付

14:00~18:00 見学会(北小学校, 下牧地内農業用水路, 竹戸改カワニナ養殖場,

月夜野ホタルの里)

20:00~21:00 ホタル観賞(月夜野町ホタルの里)

6月26日(土)

10:00~10:30 開会式

10:30~16:00 研究発表

16:00~17:00 第32回総会

18:30~20:30 懇親会

研究発表:

- カワニナの飼育実践 月夜野町立古馬牧小学校
ゲンジボタルの明滅と人工飼育の功罪 大谷雅昭
雪国植物園のホタルについて 中川七三郎
文化昆虫ホタルー古典の中からー 遊磨正秀・後藤好正
螢狩りの唄の地域多様性とその保存について 後藤好正
ゲンジボタル発生予報の試み 口分田政博
ゲンジボタル明滅周期と気温について 笹井昭一
ゲンジボタルの卵の保存 草桶秀夫・吉川貴浩
初夏と秋に成虫になったヘイケボタル 山岡 誠
東南アジアおよびその周辺から発見された水生ホタル 大場信義
奥志賀高原ヒメボタル発生地における陸産貝類について 三石暉弥

大会開催地より

第32回全国ホテル研究大会を終えて

大会実行委員会事務局 深代 敬久*

第32回全国ホテル研究大会月夜野大会にご参加いただきました会員の皆様、お元気でいらっしゃいますか。月夜野町でご覧になったホテルはいかがだったでしょうか。月夜野町の地ビールはお気に召したでしょうか。スタッフ一同、お越しくださった皆様方の良い思い出となるよう、清一杯努めさせていただきました。不慣れなため行き届かないこともあったと思いますが、大会期間中、無事舞ってくれたホテルに免じてご容赦願います。

平成10年10月1日に群馬県ホタル連絡協議会と町役場からなる実行委員会を立ち上げ、月夜野大会に向けた本格的な準備に入りました。全国規模の大会ということで、期待と不安を抱きながらの出発でしたが、財政的には群馬県の支援、人的には役場職員のほか群馬県ホタル連絡協議会々員の皆様のご支援をいただくことにより、無事大会を迎えることができました。

大会前日の施設見学では、小雨模様にもかかわらず多くの方に参加いただき、当初予定していたバスでは乗り切れず、急ぎょ追加するというドタバタもありましたが、これはうれしい悲鳴でした。

大会当日は約300名の皆様の出席をいただき、いずれも興味深い研究発表がなされました。大会移了後の懇親会にも150名の方々が出席され、そこかしこで話の輪が広がり多くの笑顔を拝見することができました。

大会翌日は大粒の雨が降るあいにくの天気でしたが、谷川岳あるいは尾瀬を見ていただきました。尾瀬については、まずまずご満足いただけたようですが、谷川岳の絶景は霧に隠れ、ご覧いただけず大変残念でした。

振り返ればいくつかの反省点はありましたが、何はともあれ、群馬県ホタル連絡協議会の皆様や町内のボランティア団体、芸能愛好会の皆様のご協力もいただき、無事全日程を終えることができました。紙上をお借りして、改めて関係の皆様方にお礼申し上げます。

ところで、比較的自然に恵まれている月夜野町においても、水路改修による河川の変化や生活雑排水、農業等の流入による水質汚濁により、かつてホタルがほとんど見られない時期がありました。しかし、カワニナの放流や生息地への立て札設置、農業使用の抑制の呼びかけ等、町内有志の方々の地道な保護活動により地域差はあるものの、各地でホタルが見られるようになりました。町としても、平成元年度に「ふるさといきもの里」に認定されたのを契機に、ホタル保護地や観察水路、カワニナの養殖施設整備、小中学校でのカワニナ飼育等のホタル保護施策を積極的に推進してまいりました。

今後も、全国ホタル研究大会の開催を新たな出発点として、「環境」が最大のテーマとされる21世紀に向け、人を始めすべての生き物に優しい町、住みよい町を実現していきたいと考えています。

最後になりましたが、全国ホタル研究大会の更なる充実と益々の発展をお祈りいたします。

* 月夜野町役場企画観光課

第32回全国ホタル研究大会に参加して

6月、研究会に備え子ども達と共に資料づくりをしていく中で、「どんな発表会なのかなあ」、「何人くらい来るんですか」、「質問されるんですか」などと心配する子ども達の声がだいぶ聞かれました。しかし、どの子ども達も自分達が取り組んできた実践の発表をよい機会ととらえ、この発表に意欲を持って準備を進めてきました。

発表当日、テレビカメラなどが設置されている様子を見て多少緊張しましたが、皆堂々と発表に臨むことができましたようです。発表後、多くの方々からおほめの言葉や激励の言葉をいただき、子ども達にとって大きな自信につながりました。

古馬牧小がカワニナ飼育に携わって四年、子ども達のさまざまな様子を見てきました。カワニナを初めて見た時の驚きの表情、稚貝が生まれた時の感動、放流の時のさみしさ、等々……。子ども達の思いの高まりは、私が想像していた以上のものでした。今回の研究発表は、そんな思いがひとつの成果となって、まとめあげられたような気がします。

今年も11月下旬、北風が膚をつく中、放流の日を迎えました。さみしい思いの中に、カワニナを育てたという満足した様子も感じられました。「ここでも大きく育つんだよ」。そんな思いで、学校近くの小川にカワニナを放流しました。

生き物、『命あるもの』を育てていくことは大変です。ただ飼育を通して得られたものは、大きく価値あることと考えます。子ども達は、徐々に生物の生態と自然とを関連して考えられるようになってきていますし、生き物や環境を思いやる心情も育ちつつあります。

これからも月夜野町の美しい環境の中で、子ども達の思いを大切にしながら飼育活動に取り組んでいこうと思っています。そしてこの活動の成果を生かして、今後は環境学習や環境保全活動により一層の充実を図っていきたいと考えています。

最後になりましたが、発表を支えていただいた町当局をはじめ多くの方々へ心より感謝申し上げ、本大会のお礼の言葉といたします。

* 月夜野町立古馬牧小学校教諭

カワニナ飼育 実践研究発表

全国ホタル研究
大会で古馬牧小

全国各地でホタルの保護活動に取り組んでいる関係者が集つた第三十二回全国ホタル研究大会（全国ホタル研究会など主催）のホタルについての研究発表会が二十六日、同町カルチャーセンターで行われ、地元小学生や全国の代表が十一のテーマを発表した。



研究発表を行つた古馬牧小の児童たち

タルを通して人里環境の保全を普遍的なものにしてきた」とあいさつ。

続いて、同町古馬牧小学校の五年生七人が「カワニナの飼育実践」を題して研究発表。カワニナ飼育の経過や反省をイラストを使って紹介した。子供たちは「カワニナは水がきれいでない」と育たないことを知り、環境のかわりを考えるようになった」と話していた。

古馬牧小の大会発表の紹介記事

(上毛新聞、1999年6月27日付)